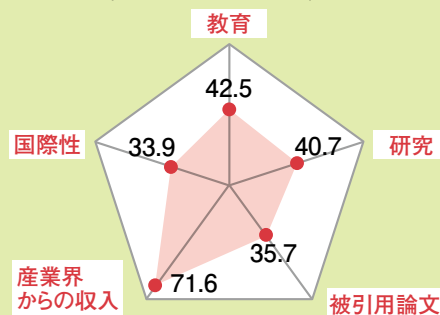




学生数 / 18707人 学部 / 文、教育、法、経済、理、医、歯、薬、工、芸術工、農
 大学院 / 人文科学、地球社会統合科学、人間環境学、法学、法科大学院、経済学、理学、数理学、システム生命科学、
 医学系学、歯学、薬学、工学、芸術工学、システム情報科学、総合理工学、生物資源環境科学、統合新領域学
 ▶ THE 世界大学ランキング 2016-17 / 351-400位 同アジア大学ランキング 2017 / 45位
 ▶ 同世界大学ランキング日本版 2017 / 7位

指標	スコア	順位	参考データ
総合	40.0-42.3	351-400位	ST比率 / 7.6
教育	42.5	=156位	
研究	40.7	=177位	留学生の割合 / 12%
被引用論文	35.7	601-800位	
産業界からの収入	71.6	=120位	女男比 / 29 : 71
国際性	33.9	601-800位	



取り組み体制

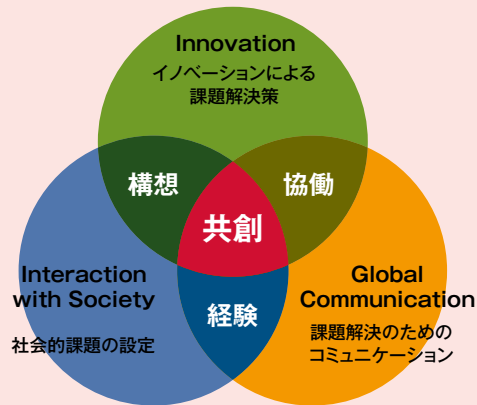
▶ 世界大学ランキングの窓口は、SHAREオフィスが担当
 ▶ 教育・研究の国際化、ガバナンス改革、レピュテーション・マネジメントはグローバル化推進本部で推進。研究戦略、産学官連携は学術研究・産学官連携本部で推進

分野	重点度	取り組み	指標
教育	◎	▶ 新たな理念でグローバル人材を育成する共創学部の新設 ▶ 各学部での英語で学位が取れる国際コースの設置(文、教育、法、経済、理、薬、工、芸術工、農)	・国際コースの数の割合33% (全学位コース中) ・外国語による授業科目開設率25% ・シラバスの英語化率100%
研究	◎	▶ 世界大学ランキング対応の基本方針、研究の国際競争力向上のための4つの方策を策定 ▶ 文理にわたる全学を挙げてのエネルギー研究(エネルギー研究教育機構を創設) ▶ レピュテーション・マネジメント(ブランディング、戦略的情報発信など)	国際共同研究グラント採択数60件/年
被引用論文	△	▶ 研究分析ツール、研究者プロファイリングツール、IRデータを活用した研究力分析 ▶ 世界トップ100大学の研究者ユニットの招聘	—
産業界からの収入	◎	▶ URA機能強化(シーズ集作成、知的財産の一元管理、起業支援など) ▶ 組織対応型連携の推進	—
国際性	○	▶ ダブルディグリーの推進 ▶ 世界的シンポジウムの開催(世界社会科学フォーラムなど)	・外国人教員等*2の割合65% ・留学生の割合25% ・ダブルディグリー、ジョイントディグリー16件 ・国際学会・シンポジウム開催70件/年 ・短期留学プログラム68件

*各大学による重点度 ◎: より一層伸ばす強み ○: 課題あり △: 今後力を入れていきたい *2 外国人および外国の大学で単位を取得した専任教員など

注目! 教育システムの国際化を新設の「共創学部」が牽引

2018年4月に設置される共創学部(入学定員105名)は、九州大学としては半世紀ぶりの新設学部だ。国家や社会、文化の境界を越え、さまざまな人々と協働して課題解決に取り組むことのできるグローバル人材を育成するため、世界的な視野や国際コミュニケーション力の養成に力を入れる。外国語による合意形成を可能にする語学教育、海外大学への全員留学、日本人学生と外国人留学生が同じクラスで学ぶ「クラス・シェア」など、共創学部に取り入れられる教育システムは、世界の知性が行き交うトップ・グローバル・ハブ・キャンパスの下地となるものだ。



九州大学

研究の国際競争力強化

データの活用とレピュテーション・マネジメント

世界トップレベルの研究教育拠点づくりに向け、取り組みを加速している九州大学。執行部の覚悟と具体的な方策を聞く。



副学長 緒方一夫

おがたかずお ● 1978年九州大学農学部農学科卒。1984年同大学院農学研究科博士後期課程修了。同大学農学研究センター助手、同大学農学部助手を経て、1989年オーストラリア連邦科学産業研究機構訪問研究員。同大学熱帯農学研究センター助教授を経て2003年教授。2014年より現職。SHAREオフィス室長を兼務。

現在の順位に甘んぜず
 トップレベルをめざす

本年のTHE世界大学ランキングの結果を見ると、本学の総合スコアは前年よりもアップしています。しかし総合順位は上がっていません。これは、世界の他大学が本学以上にスコアを伸ばしているためであり、まだ努力の余地があると捉えています。

世界トップレベルの研究教育拠点への飛躍をめざし、2016年度にはタスクフォースを立ち上げ、総長・関係理事および副学長を中心に課題解決に向けた方策を集中的に議論しました。優れた研究を行うことは大学の本質の一つです。そこで、「研究力の向上に注力して国際競争力を高め、その結果として世界大学ランキングの順位を向上させること」を基本方

全学的にデータ活用
 効果的な対策を講じる

取り組みの柱は、「研究力強化および研究資金の確保」、「研究人材の確保」、「研究のための環境整備と時間確保」、「研究の国際ネットワークの強化」の4つです。それぞれについて行動計画を作成し、企画・人事・研究などの担当理事のもと、より細かく設定した目標や工程表を作り、実行に取り掛かっています。

活動推進のため、データを大いに活用しています。THEのランキングでは「被引用論文」に課題が見られました。そこで、研究の戦略性を高め、よりインパクトの高い論文を発表するために、研究分析ツールや研究者プロフィール

ングツールを整備しました。これらを使うと、自分の研究分野における世界の研究者数や論文数をはじめ、被引用回数、共同研究者の国別分布などがわかります。これらのツールは全教員が利用可能です。データをもとに、新たな研究戦略や研究企画などを、各学部、そして各研究者で考えてもらおうというわけです。

さらに前年度には、IR(インスティテューショナル・リサーチ)室が新たに立ち上がり、研究や財務、学務などのデータベースを統合的に扱えるようになりました。全学を俯瞰したデータや学部学科ごとの詳細データなど、さまざまな切り口でデータを分析することで、組織としての大局的な見通しと細やかな対策を講じることが可能になりました。

ランキングに反映させるには、レピュテーション・マネジメント(以下RM)が重要です。国内外の研究者や学生、企業関係者や同窓生など、ステークホルダーごとに戦略的に情報を発信していくことで、本学や本学の取り組みに対する理解を高めていく必要があります。RMでは、広報戦略や研究戦略、国際戦略が効果的に連携することが欠かせません。そのため、広報室のみならず、IR室、学術・産学連携系の機構、国際部、SHAREオフィスなどが一体となった体制を組んでいます。

ランキングに用いられている海外留学生数などのデータは数年前のものなので、現在の取り組みが反映されるには時間がかかりそうです。だからこそ、国際競争力強化の取り組みを加速して進めていきます。